

## 例言

- ・本書は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所が実施する多言語化事業の研究報告書である。
- ・本書は、[Ⅰ 論考] [Ⅱ 事業報告] [Ⅲ 実験] [Ⅳ 資料] の4部構成からなる。Ⅰは、『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用2』『奈良文化財研究所紀要2020』から転載された多言語関係研究報告や書き下ろしの論考などを収録し、Ⅱは2019年度に開催された「多言語化事業に関する意見交換会」でおこなわれた議論の記録を収録し、Ⅲは、文化財関係用語シソーラスの必要性・構築方法・実践例および今後の可能性についての報告であり、Ⅳは令和2年度文化財多言語解説整備事業を遂行する際に作成された文化財用語対訳集を掲載することとした。
- ・表紙画像は「舞楽面 案摩」（国立博物館所蔵品統合検索システム [https://colbase.nich.go.jp/collection\\_items/tnm/C-1149?locale=ja](https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/C-1149?locale=ja)）を編集・加工したものである。
- ・本書に使用した写真・挿入図は、特に断りのない限り、奈良文化財研究所が著作権を有するものである。
- ・本書の編集は、奈良文化財研究所企画調整部文化財情報研究室多言語チームの協議の上、高田祐一の指導のもと、呉修喆が担当した。また、データ整理等にあたり、山岡泰子の助力を得た。